

『灯油価格高騰による寒冷地在宅患者への緊急生活影響調査』の報告  
全日本民主医療機関連合会 / 国民運動部

全日本民医連では、この間、灯油価格高騰による寒冷地での生活の困難さがクロ・ズアップされる中で、とりわけ高齢や独居の在宅患者への深刻な事態を心配し、下記のような目的で緊急生活影響調査を行ったので報告する。

#### 調査目的

暖房費節約による生活と健康への影響を調査し実態を把握する。

気になる方への対策と対応、アドバイス等を行い、困難事例を把握して必要な場合は保健所や地域包括支援センターにも報告しともに対応する。

寒冷地対策の必要性を行政・世論に提起していく。

#### 調査対象

\*在宅患者で65歳以上の老人独居・老夫婦世帯の方。あるいは、気になる患者。

\*北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野の各県連を中心に調査を依頼。

#### 調査方法

アンケート（別紙）による聴き取り調査と健康チェック、居室の温度測定他。

#### 調査期間

2008年1月14日～1月27日までの2週間を基本として調査した。

### 調査結果の概要

\*注) 調査項目は未記入・不明もあり、総数とは一致しない。

#### 1. 集約数：12県連から321件

(北海道21、青森30、宮城42、秋田32、山形10、福島17、新潟28、富山5、石川43、福井36、山梨20、長野37)

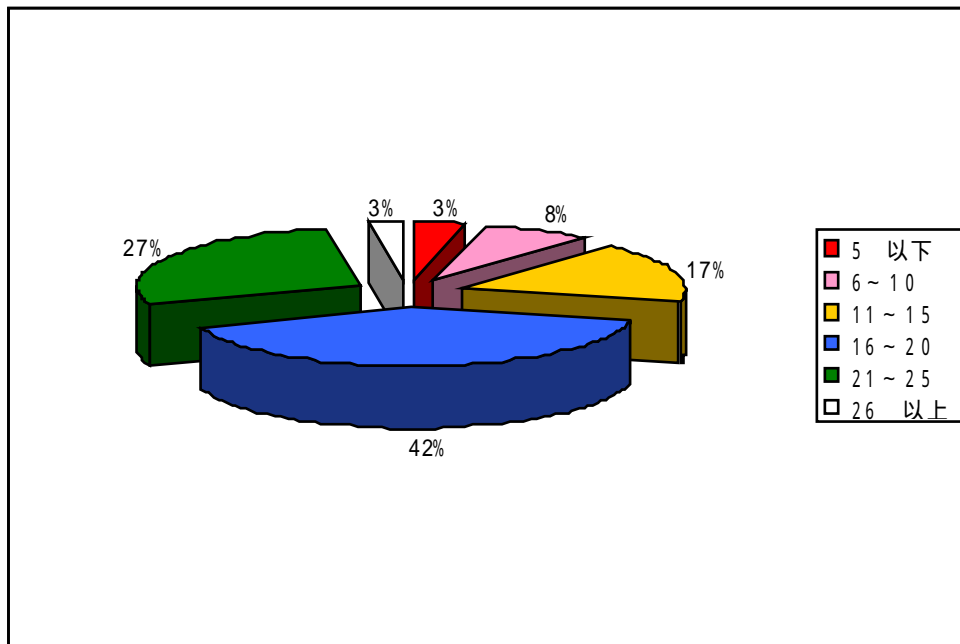
#### 2. 性別：男性95人 女性199人 不明27人

#### 3. 年代別：

90代以上	16人
80代	78人
70代	77人
60代	27人
その他(不明含)	123人

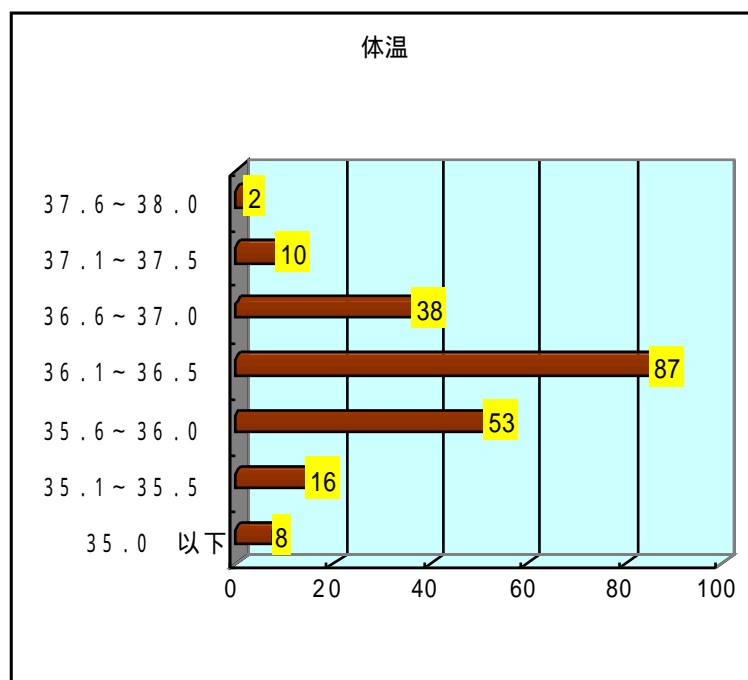
4. 世帯状況：独居 47.7%、夫婦のみ 36.8%、その他 15.5%

5. 室温：10 以下が 1 割、15 度以下は 3 割(室温測定された 230 世帯の割合)



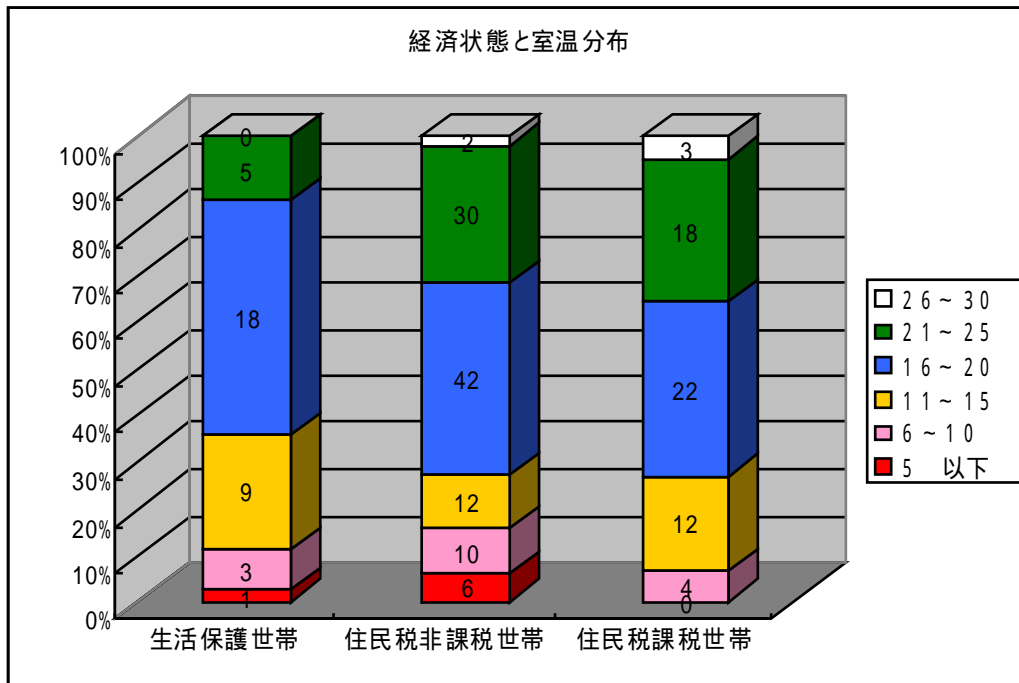
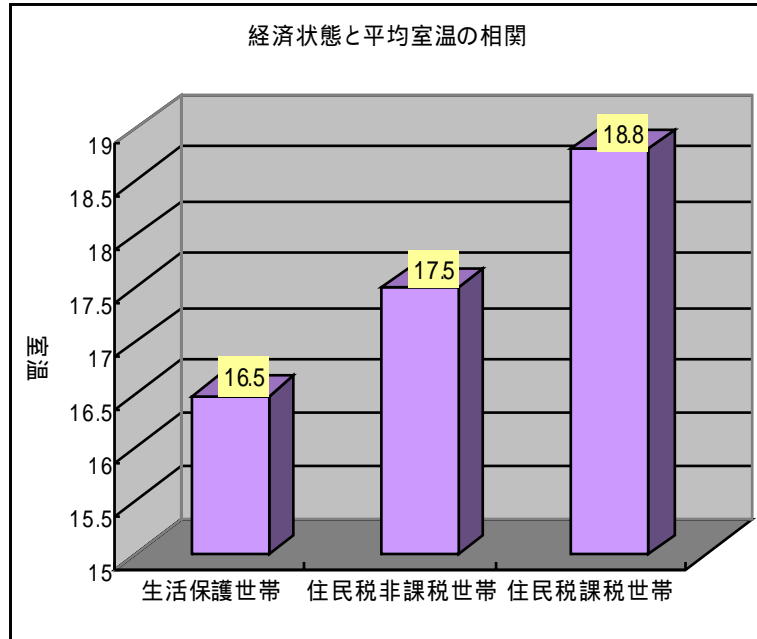
\* 部屋の中で生活していても外気温とほぼ同じという環境で生活を余儀なくされている方の存在が浮き彫りになりました。5 以下という極寒の室温の世帯 3%を含めて 10 以下が 11%を占めます。ちなみに 20 以下が全体の 7割を占めました。

6. 体温：36 以下が 3 割 5 分 (体温測定した 214 人の方の割合)



\*体温35 以下の方が8人、36 以下では75人にものぼるなど、一概に寒さのためとは断定できませんが、低体温とも言える状態がうかがえます。高熱よりも低熱？を心配する環境にあります。

7. 経済状態と室温との相関：室温にも「格差」が・・・（測定197人）



\*全体として室温が低いという事と、経済状態が室温の格差にもクッキリと反映しています。各世帯の室温の平均値ではおよそ1~2 の差、各世帯ごとの分布では割合として生活保護世帯に15 以下が多く、25 以上が少ないことが判ります。

8. 深刻事例：

北海道 男性 独居 灯油代ひと冬6万円

気温零下5 室温15 住民税非課税世帯

- \* 聴き取り) 暖房をつけている時間、場所を減らしている。朝起きる時間を遅らせている。ストーブをつけていないと寒くてどうしようもない。
- \* 訪問者の感想) 風呂なし、トイレ共同のアパート暮らし。日が当らず日中も暗いため部屋が暖まるのに時間がかかる。また、ドア、窓のつくりは寒冷地仕様ではなく、寒気が入ってくる。本人は着こむことで寒さをしのいでいる。部屋の気温はストーブがついていても思うように上がらない。生活するために利用しているサービスを削るという状況となっており、今後の在宅支援が困難となりそうなケースです。寒冷地は暖房を消して生活することは不可能なので、いち早い救済措置が求められます。「在宅で凍死」してしまう方が出る前に対応を求めます。

青森県 80歳 女性 独居 灯油代月2万円 暖房使用時間は6～8時間/日

気温零下1 室温3 体温36.6

- \* 聴き取り) 暖房をつけている時間、場所を減らしている。ヘルパーが10時に訪問するまでストーブをつけず布団にいる。ヘルパーがストーブをつけようと話すもしぶしぶ。夕方には消し布団に入る。電気毛布を使用している。灯油がもったいないと話す。
- \* 訪問者の感想) 本人、鼻水・咳あり。風邪気味であってもストーブをつけようしない。食費を切りつめ、テレビなどの娯楽もガマンしている。年金でのやりくりはとても大変である。

宮城県 女性 老夫婦 灯油代月3千6百円 暖房使用時間は5～6時間/日

気温8 室温11 体温36.7 住民税非課税世帯

- \* 聴き取り) 昨年までは灯油を使っていたが、高くなったので今年ではできるだけ灯油は使わず、電気コタツを使うようにしている。(電気の方がずっと安い、灯油300円/日だが電気だと10円/日)
- \* 訪問者の感想) 常にベッド臥床しているが、窓が西側にあるために、日中は日が当たらない。そのためもあり、部屋の温度も低く(訪問時も)風邪などひきやすい。本日咳あり。生活保護世帯だけでなく、低所得世帯にも何らかの援助が必要と思う。

秋田県 女性 独居 灯油代ひと冬106800円 暖房使用時間は15時間/日

気温零下2 室温7 体温35.7 住民税非課税世帯

- \* 聴き取り) 暖房をつけている時間、場所を減らしている。部屋の温度を低く設定している。以前は石油ストーブを24時間つけていたが、今は電気コタツを24時間にしてるので電気代金が高くなった。灯油代が高いからと石油ストーブをつけないわけにはいけないので、高くても必要な物は買わなければならない。
- \* 訪問者の感想) 全体的に室温は低く、本人は電気コタツにもぐりこんでいる。昼夜

手袋をはめている。昨年より2年続きで両手指をしもやけ出現している。以前と比べると石油ストーブ点火時間を短縮したり、ストーブの数を減らしたりしている。本人は電気コタツに24時間もぐりこみ、上半身は厚着している。毎日サービス提供しているヘルパーさんはコートやジャンパーを着て仕事をしている。

山形県 66歳 男性 独居 透析患者 灯油代月2万円

気温4 室温8 暖房使用時間は2～3時間/日 住民税非課税世帯

- \* 聴き取り)暖房をつけている時間、場所を減らしている。灯油代が高いため1/18より昼・夕食の配食弁当を中止、食費を節約している。居間のスト-ブは、食事の時つけるようにして、日中はベッドに入ってしのいでいる。
- \* 訪問者の感想)訪問時は石油スト-ブつけていたが寒く、本人もジャンパーを着ており私自身も脱ぐことが出来なかった。生保の対象とならず病気を抱えギリギリの生活をしている人の実態をもっと把握して欲しい。

福島県 女性 老姉妹2人 灯油代月5千円

気温不明 室温18 体温35.4 生活保護

- \* 聴き取り)ストーブで室内が暖まればこまめに消すようにしている。お風呂を沸かすのも灯油が必要なので、姉妹が続けて入るように心がけている。市営住宅に住んでおり、平屋が密集しており日当たり不良。姉妹二人とも腰痛があり、寒いと痛みがひどくなる。
- \* 訪問者の感想)自分達は生活保護を受けているが、収入は決まっているため、買い物は1円でも安いものをと心がけている。しかし、灯油の価格は上がり、腰痛があるので配達してもらおうと余計負担は大きくなる。自分達のみならず、足腰の悪い他の年寄りはどうしているのか?と思う。少し目を向けてほしい。

新潟県 女性 独居 灯油代月6千5百円 暖房使用時間は15時間/日

気温5 室温14 体温35.7 生活保護

- \* 聴き取り)暖房をつけている時間、場所を減らしている。寒いときは布団にもぐる。(ペットボトルにお湯を入れて湯たんぽにして使用)。
- \* 訪問者の感想)指先の冷感あり。病状安定のためにも暖かい室内で患者様に過ごしてほしいです。暖房費の援助をお願いします。

石川県 101歳 女性 独居 灯油代ひと冬およそ3万円

気温3 室温12

- \* 聴き取り)電気スト-ブとコタツのみにして灯油は使用していない。木造の古いアパートの二部屋は、来客時しかスト-ブを使用していなく、ヒンヤリしている。厚着をしている。後期高齢者医療制度の話は聞いている。100才以上生きてきたが、早く死ねということなのだろうか。制度は中止して欲しい。
- \* 訪問者の感想)部屋の中が寒い。

福井県 82歳 女性 老夫婦 灯油代ひと冬61000円 暖房使用7~8時間  
気温0 室温15 体温36.5 生活保護

- \* 聴き取り)暖房をつけている時間、場所を減らしている。部屋の温度を低く設定している。妻を介護しているため、夜間帯はどうしても暖房が必要だ。とにかくなんとかしてほしい。
- \* 訪問者の感想)妻の介護にお金がかかるため、夫は食事を簡単なものですませ、入浴の回数も減らしているし、必要最低限の物しか買っていない。

山梨県 女性 息子夫婦と同居 灯油代月7000円 暖房使用6時間  
気温8 室温11 体温36.4 住民税課税

- \* 聴き取り)暖房をつけている時間、場所を減らしている。部屋の温度を低く設定している。寒いときはどうしても部屋を暖めなくてはならないので、温度にも気を配り、暖房費節約のためにも湯たんぽなどを利用しています。

長野県 78歳 男性 老夫婦世帯 灯油代月当たりおよそ1万5千円  
気温1 室温1

- \* 聴き取り)暖房をつけている時間と場所を減らしている。使うときだけオンにして、使わないときはオフにしている。看護師がベッドサイドに近づいた時はオンにするが、お薬の準備などで少し離れただけでもオフにしている。高齢、一人暮らし世帯には灯油代の補助があると聞いているが、自分たちの所ではあてはまらないようでもらえてないが、先日150%を一回に入れたら、15000円以上だった。暮らしていけない。
- \* 訪問者の感想)ベッドの中でふとんをかぶり、厚着(上5枚、下4枚)をして過ごしてられる。冬場になると血圧の上昇が見られるが、今年は更にその傾向が強いのは、暖房費を削っているためなのか?灯油も高くなっているが、いろいろな物品の値上がりもあり細かい努力をしておられるようだ。寒さだけ援助してもらっても、生活自体がギリギリの様子。

長野県 78歳 女性 独居  
気温零下4 室温零下4 暖房使用時間3時間 住民税非課税

- \* 聴き取り)暖房をつけている時間、場所を減らしている。日中の日光に当たっている時間に活動する。暖房はコタツのみ。天気が悪く寒い日のみ少しスト-ブをつける。着ぶくれして体をスム-スに動かせるのだろうかと思うようなスタイル。生活保護を受けたい。(生保)基準以上働いて税金払ってきた。寒くないよう、腹が減らないような生活がしたい。政治家が無駄に税金使ったり誤魔化したりしないで欲しい。
- \* 訪問者の感想)以前から冬となると活動が減っていたが、今年はいつにもまして動かない。室内温度は外気温と同じ。スタッフが訪問するとあわててスト-ブをつけてくれる。本人はコタツにスッポリ入って必要以外は動かない。週一回のデイサービスのみが、暖かい部屋と入浴で体をゆるめることが出来る日。冬の間ADL(日

常生活動作)が低下するのではないかと不安。上手く表現できないで居るが、衣食住に心配のない生活を望んでいる。最低限の生活も脅かされている現状を私たちが代弁していかなければと思う。

## 9.まとめ:

外気温とあまり変わらない室内環境での生活を余儀なくされている方たちの実態は深刻です。コートやジャンパー、湯たんぽの活用や布団にくるまって寒さに耐えている姿が目に見えます。

また、一定の室温がある世帯でも、「暖房を切るわけにはいかない」という、事情の中で暖房費以外の食費を切りつめたりして儉約している家計状態が見えます。

低体温や寒さによる血圧上昇など、在宅患者への更なる健康悪化が心配されます。

経済状態と室温との相関関係も浮き彫りになりました。2の差ですが、ここにも格差が現れていました。

貧困・孤独・病気という問題に、更に「寒さ」が襲いかかっています。北海道岩見沢市では、81歳の一人暮らしのご婦人が孤独死していた事がテレビ報道されました。2台のストーブの1台は壊れ、もう1台は灯油がカラだったという事です。健康状態への悪影響と共に「在宅凍死」とも呼べるような事態が懸念されます。

政府・行政の緊急対策を強く求めます。

以上